

(様式第 10 号) (第 53 条、第 54 条の 2、第 55 条関係)

施工状況等報告書

平成 28 年 10 月 28 日

長野県知事 殿
(長野市長 殿)

住 所 長野市箱清水一丁目 3 番 8 号
氏 名 長野広域連合
長野広域連合長 加 藤 久 雄
〔法人にあつては、主たる事務所の
所在地、名称及び代表者の氏名〕

長野県環境影響評価条例第 32 条第 1 項 (長野県環境影響評価条例第 40 条第 1 項において準用する同条例第 32 条第 1 項) の規定により、下記のとおり送付します。

記

対 象 事 業 の 名 称	長野広域連合 A 焼却施設建設事業
報 告 対 象 期 間	平成 28 年 7 月 1 日から 平成 28 年 9 月 30 日まで
環境の保全のための措置の状況	別添のとおり
対 象 事 業 の 実 施 状 況	別添のとおり

(備考) 必要に応じ、環境の保全のための措置の状況又は対象事業の実施状況に係る図面又は写真を添付すること。

— 目 次 —

1. 環境の保全のための措置の状況	
1.1_環境保全措置状況 2
添付資料①～⑨ 4
2. 対象事業の実施状況に係る図面、写真	
2.1_総合仮設計画図 14
2.2_現況写真 15
2.3_工事工程表(7～9月) 16
2.4_主な工事写真 17

1. 環境の保全のための措置の状況

長野広域連合A焼却施設建設事業に係る環境影響評価事後調査(工事中)環境保全措置状況(1/2)

対象	内容	作業位置	環境保全措置	環境保全措置			添付資料
				種類	実施内容	実施状況	
1 大気質	(1) 工事関係車両の走行に伴う大気質	工事関係車両走行ルート	住宅地を避けたルートの設定	回避	住宅地を避けたルート設定を行い、案内図により周知徹底	工事関係者に指導・教育を行い、周知徹底を図った。 ・新規入場教育 ・毎日の打合せ(搬入時間の調整など) ・災害防止協議会	①、②
			搬入時間の分散	低減	現場工程打合せにより搬入時間(分散化)の調整		
			交通規制の遵守	低減	現場教育時に交通規制遵守への指導		
		対象事業実施区域	暖機運転(アイドリング)の低減	低減	アイドリングストップの指導、実施状況の管理		
	土砂搬出車両の荷台のシート覆い		低減	土砂搬出時は荷台シート覆いの設置 (原則、場外土砂搬出は行わない計画とします。)	場内再利用により、場外土砂搬出は行わない予定です。	—	
	土砂運搬車両等のタイヤ洗浄		低減	タイヤ洗浄機の設置し、タイヤ洗浄の実施	タイヤ洗浄機、散水車を使用し、粉じん飛散防止を図った。	③	
	(2) 建設機械の稼働に伴う大気質	対象事業実施区域	排出ガス対策型機械の使用	最小化	排出ガス対策型機械の採用	排出ガス対策型機械を採用し、排出ガス抑制を図った。	④
			建設機械稼働時間の抑制	低減	現場工程打合せにより適正な稼働時間の調整	毎日の打合せにより稼働時間の調整を行った。	①、②
			建設作業機械の分散配置	低減	建設機械の配置に配慮し、住宅地から離れた位置に建物を計画	住宅地から離れた位置に建設機械を配置する。	
			ダンプトラックのアイドリング停止	低減	アイドリングストップの指導、実施状況の管理	工事関係者に指導・教育を行い、周知徹底を図る。	
(3) 建設機械の稼働に伴う粉じん	対象事業実施区域	工事区域に仮囲いを設置	最小化	工事区域に仮囲い(3m)を設置(住宅地側は仮囲い(5m))	工事区域には仮囲いを設置した。	⑤	
		排出ガス対策型機械の使用	最小化	排出ガス対策型機械の採用	排出ガス対策型機械を採用し、排出ガス抑制を図った。	④	
		工事区域への散水	低減	粉じん飛散防止のため、散水の実施	散水車を使用し、粉じん飛散防止を図った。	③	
2 騒音	(1) 工事関係車両の走行による影響	工事関係車両走行ルート	住宅地を避けたルートの設定	回避	住宅地を避けたルート設定を行い、案内図により周知徹底	工事関係者に指導・教育を行い、周知徹底を図った。 ・新規入場教育 ・毎日の打合せ(搬入時間の調整など) ・災害防止協議会	①、②
			搬入時間の分散	低減	現場工程打合せにより搬入時間(分散化)の調整		
			交通規制の遵守	低減	現場教育時に交通規制遵守への指導		
	(2) 建設機械の稼働による影響	対象事業実施区域	工事区域に仮囲いを設置	最小化	工事区域に仮囲い(3m)を設置(住宅地側は仮囲い(5m))	工事区域には仮囲いを設置した。	⑤
			低騒音型機械の使用	最小化	低騒音型機械の採用	低騒音型機械を採用し、騒音抑制を図った。	④
		建設機械の稼働時間の遵守	最小化	現場工程打合せにより適正な稼働時間の調整	毎日の打合せにより稼働時間の調整を行った。	②	
3 振動	(1) 工事関係車両の走行による影響	工事関係車両走行ルート	住宅地を避けたルートの設定	回避	住宅地を避けたルート設定を行い、案内図により周知徹底	工事関係者に指導・教育を行い、周知徹底を図った。 ・新規入場教育 ・毎日の打合せ(搬入時間の調整など)	①、②
			搬入時間の分散	低減	現場工程打合せにより搬入時間(分散化)の調整		
			交通規制の遵守	低減	現場教育時に交通規制遵守への指導		
	(2) 建設機械の稼働による影響	対象事業実施区域	低振動型機械の使用	最小化	低振動型機械の採用	振動の少ないアースオーガーを採用し杭工事での振動抑制に努めた。	④
		建設機械の稼働時間の遵守	最小化	現場工程打合せにより適正な稼働時間の調整	毎日の打合せにより稼働時間の調整を行った。	②	
4 水質	(1) 工事による影響(平常時)	対象事業実施区域	揚水量を低減する掘削工法等の検討	最小化	湧水の揚水抑制のため、遮水工法(SMW、止水改良)の採用	施工計画にて揚水抑制のため、遮水工法を採用しています。	⑥
			掘削深度の最小化	最小化	掘削深度が最小となるよう、施設設計の実施		
			濁水を抑制する揚水方法の選定	低減	湧水の揚水抑制により、濁水の発生も低減		
			湧水の濁水化防止	低減	湧水揚水時は仮設沈砂槽に貯留し濁水化の防止		
			湧水の濁りの監視	低減	湧水揚水時は濁水状況を監視し、状況に応じ濁水沈降の上、上澄水を放流	平成28年11月以降から湧水の揚水を予定しています。	—
	(2) 工事による影響(降雨時)	対象事業実施区域	地区外流出抑制対策の実施	低減	工事区域内での地下浸透の促進、素掘り側溝の設置	雨水は素掘り側溝、工事用仮設井戸、排水釜場を設け、場内に地下浸透していることを降雨時に監視し、場外への濁水流出防止を図った。	⑦
			仮設沈砂池の設置	低減	仮設沈砂池の設置により、濁水流出の低減		
			雨水排水の濁りの監視	低減	降雨時は濁水状況を監視し、状況に応じ濁水沈降の上、上澄水を放流		
凝集剤による土壌の沈殿促進			低減	降雨時は濁水状況を監視し、状況に応じ、凝集剤による土壌の沈殿促進			
5 水象	(1) 工事による影響	対象事業実施区域	揚水量を低減する掘削工法等の検討	最小化	湧水の揚水抑制のため、遮水工法(SMW、止水改良)の採用	施工計画にて揚水抑制のため、遮水工法を採用しています。	⑥
			掘削深度の最小化	最小化	掘削深度が最小となるよう、施設設計の実施		
			止水矢板等の設置による影響範囲の最小化	最小化	遮水工法(SMW、止水改良)による影響範囲の最小化		
			地下水位モニタリングの実施	低減	地下水位計による地下水位モニタリングの実施		

【環境保全措置の種類】

回避: 全部又は一部を行わないこと等により、影響を回避する。
 最小化: 実施規模または程度を制限すること等により、影響を最小化する。
 修正: 影響を受けた環境を修復、回復または復元すること等により、影響を修正する。
 低減: 継続的な保護または維持活動を行うこと等により、影響を低減する。
 代償: 代用的な資源もしくは環境で置き換え、または提供すること等により、影響を代償する。

長野広域連合A焼却施設建設事業に係る環境影響評価事後調査(工事中)環境保全措置状況(2/2)

対象	内容	作業位置	環境保全措置	環境保全措置			添付資料
				種類	実施内容	実施状況	
6 土壌汚染	(1)工事による影響	対象事業実施区域	土砂搬出車両荷台のシート覆い	低減	土砂搬出時は荷台シート覆いの設置 (原則、場外土砂搬出は行わない計画とします。)	場内再利用により、場外土砂搬出は行わない予定です。	—
			土砂運搬車両等のタイヤ洗浄	低減	タイヤ洗浄機の設置し、タイヤ洗浄の実施	タイヤ洗浄機、散水車を使用し、粉じん飛散防止を図った。	③
			工事中出入り口の路面洗浄	低減	散水による路面洗浄の実施		
			工事区域への散水	低減	粉じん飛散防止のため、散水の実施		
7 地盤沈下	(1)工事による影響	対象事業実施区域	揚水量を低減する掘削工法等の検討	最小化	湧水の揚水抑制のため、遮水工法(SMW、止水改良)の採用	施工計画にて揚水抑制のため、遮水工法を採用しています。	⑥
			掘削深度の最小化	最小化	掘削深度が最小となるよう、施設設計の実施		
			止水矢板等の設置による影響範囲の最小化	最小化	遮水工法(SMW、止水改良)による影響範囲の最小化		
			地下水水位モニタリングの実施	低減	地下水水位計による地下水水位モニタリングの実施	敷地内の地下水水位計により地下水水位モニタリングを実施しています。	⑧
流動化物(砂等の礫間充填物)を採取しない揚水方法の採用	低減	揚水抑制により、流動化する砂礫等の採取低減	施工計画にて揚水抑制のため、遮水工法を採用しています。	⑥			
8 植物	(1)緑化	対象事業実施区域	公共施設としてふさわしい規模の緑化	修正	緑化率20%を確保	外構設計にて以下の点を考慮の上、協議中。 ・緑化率20%の確保 ・在来種の選定 ・屋上緑化・壁面緑化の採用	—
			現存植生等を考慮した植栽及び緑化	修正	植栽及び緑化に在来種を選定		
			屋上緑化・壁面緑化	代償	屋上緑化・壁面緑化を検討		
9 動物	(1)工事による影響	対象事業実施区域	「大気質」、「騒音」、「振動」、「水質」、「植物」の工事による影響の環境保全措置を実施	—	「大気質」、「騒音」、「振動」、「水質」、「植物」の項目に準じる	「大気質」、「騒音」、「振動」、「水質」、「植物」の項目に準じます。	—
10 生態系	(1)工事による影響	対象事業実施区域	「大気質」、「騒音」、「振動」、「水質」、「植物」、「動物」の工事による影響の環境保全措置を実施	—	「大気質」、「騒音」、「振動」、「水質」、「植物」、「動物」の項目に準じる	「大気質」、「騒音」、「振動」、「水質」、「植物」、「動物」の項目に準じます。	—
11 景観	(1)工事による影響	対象事業実施区域	工事区域周辺への仮囲いの設置	最小化	工事区域に仮囲い(3m)を設置(住宅地側は仮囲い(5m))	工事区域には仮囲いを設置した。 (周辺環境に配慮した白色系の仮囲いを採用)	⑤
			仮囲いの色彩等の考慮	低減	住宅地を考慮した仮囲いの色彩、デザインを採用		
12 ふれあい活動の場	(1)工事による影響	対象事業実施区域	「大気質」、「騒音」、「振動」、「水質」の工事による影響の環境保全措置を実施	—	「大気質」、「騒音」、「振動」、水質」の項目に準じる	「大気質」、「騒音」、「振動」、水質」の項目に準じます。	—
13 廃棄物等	(1)工事による影響	対象事業実施区域	建設発生土の再利用	低減	発生土を場内の埋め戻し等に再利用	場内発生土を造成盛土として再利用しています。	⑨
			コンクリートくず、金属くず、木くず等の再生利用	低減	コンクリートくず、金属くず、木くず等の再生利用	平成29年1月以降から建設廃棄物の再利用を予定しています。	—
			現場での分別排出	低減	現場発生廃棄物の分別搬出	現場発生廃棄物は分別搬出を行っています。	⑨

【環境保全措置の種類】

回避:全部又は一部を行わないこと等により、影響を回避する。
 最小化:実施規模または程度を制限すること等により、影響を最小化する。
 修正:影響を受けた環境を修復、回復または復元すること等により、影響を修正する。
 低減:継続的な保護または維持活動を行うこと等により、影響を低減する。
 代償:代用的な資源もしくは環境で置き換え、または提供すること等により、影響を代償する。

■新規入場者教育資料

新規入場者のみなさんへ

北野建設は労災隠しをいたしません！ 小さな怪我でも報告！ 報告はタイムリーに実施！

当現場の紹介

工 事 名	（仮称）長野広域連合A競争施設）建設工事
上 期	平成27年7月31日 ～ 平成31年2月28日
工事場所	長野県長野市松岡二丁目863番地1
第 二 次 監 理 者	長野広域連合
工事概要	構造 SRC造・S造 階数 5/2・3/0 延床面積 20,365.0 ㎡
施 工 種 別	高圧AS防水、管理棟・AS防水外断熱
外 部 工 種 種 別	ALC、セキコ板、管理棟セキコ板
監 理 者 名 義	経営者 二 橋 直 志 協 理 者 橋 本 博
工事所長	武土清康 主 任 緑 木 竜
保 護 員 名 義	主任 橋本博 副主任 野田隆博 担当 野田隆博
TEL	026-214-2427 FAX 026-214-2428

当現場の安全衛生方針

当現場の安全衛生目標

当現場の品質方針(重点目標) ISO9001

当現場の環境方針(重点目標) ISO14001

北野建設の規則

新規入場者入教育時に実施する血圧測定の結果により、下記の扱いとなりますのでご注意ください

当社現場は、必ずヘルメット・靴(サンダルや草履は不可)を着用しなければ入場を認めません！

通行規制 有・(無)
時間規制 有・(無)

現場周辺・駐車場案内図

工事関係者駐車場 ※現場内

現場出入口 ※堤防道路より

作業所の規則

- イ. 車両の通行ルートは近隣協定で決められています。南側堤防道路から出入して下さい。
- ロ. 通勤車両は、指定された工事用駐車場に駐車して下さい。
- ハ. 通勤車両・待機車両のイドリング防止に努めて下さい。
- ニ. 駐車場・道路までの経路、場内全て禁煙。禁煙禁止です。(喫煙は林間等の指定された場所で行ってください)
- ヘ. 朝礼からヘルメット・安全帯・安全靴を着用して下さい。新規入場者は朝礼にて自己紹介と服装チェックを実施します。(不備がある方は入場出来ません)
- ト. 新規入場者教育の際に、ヘルメットへ新規入場者のステッカーを貼って下さい。(1週間経過後「新規入場者」刺を剥がす)
- チ. 不安全行動があった場合は上記ステッカーを1枚づつ剥がします。(3回剥がされた方は退場して頂きます)
- リ. 現場内では全て安全帯を着用して下さい。(特別な許可がない限り外さない)
- ル. 新規入場者教育の際に「資格者・役割一覧表」を記入し提出して下さい。
- ロ. 副長・作業主任者・作業指揮者・合図者・玉掛者はヘルバンドを着用して下さい。
- ク. クレーン・杭打機・車両系建設機械を使用する作業は、前日の15:30までに作業計画書を提出して下さい。(継続作業の場合は1週間ごと提出して下さい)
- カ. 持込機械工具等は申請・点検を確実に実施して下さい。(詳細別紙)
- コ. 安全帯の副長さんは10:00からの安全パトロールに参加して下さい。
- ク. 安全パトロールの修正結果を当日の帰る前までに報告書に記入して下さい。
- シ. 毎週末曜日の13:00より一斉清掃を実施します。
- ス. 退場する車両のタイヤを洗浄して下さい。また搬入業者に洗浄を指導して下さい。
- セ. 仮設設備の取り外し・盛り替えは必ず担当者の許可を得てから行ってください
- テ. 作業内容・作業方法の変更に際しては、必ず事前に北野建設担当者に連絡し、手続の再確認を行うこと
- ト. 作業日は原則日曜日を除いた日、作業時間は午前8:00～午後6:00までです。(近隣協定あり)
- ム. 業主・監理者・近隣に対しては英語で挨拶を交わしましょう
- ウ. 高圧作業の際は、防護具の落下防止措置を行うこと

住宅地を避けたルートからの出入りおよびアイドリングストップの指導

作業所の規則

イ. 車両の通行ルートは近隣協定で決められています。南側堤防道路から出入して下さい。

ロ. 通勤車両は、指定された工事用駐車場に駐車して下さい。

ハ. 通勤車両・待機車両のイドリング防止に努めて下さい。

交通規制の遵守

⑪ 過積載禁止・運転中の携帯使用禁止等道路交通法を遵守すること。

■毎日の打合せ(状況写真)

毎日の打合せにて以下の点についても調整を実施しています。(1日1回実施)

- ・搬入時間(分散化)の調整
- ・建設機械稼動時間
- ・建設機械の配置



■災害防止協議会(状況写真)

災害防止協議会にて以下の点についても指導・教育を実施しています。(月1回実施)

- ・アイドリング防止
- ・交通規則の遵守



■ 高圧洗浄機によるタイヤ洗浄状況



■ 散水による路面の洗浄状況



■ 粉じん飛散防止のため、散水車にて散水状況

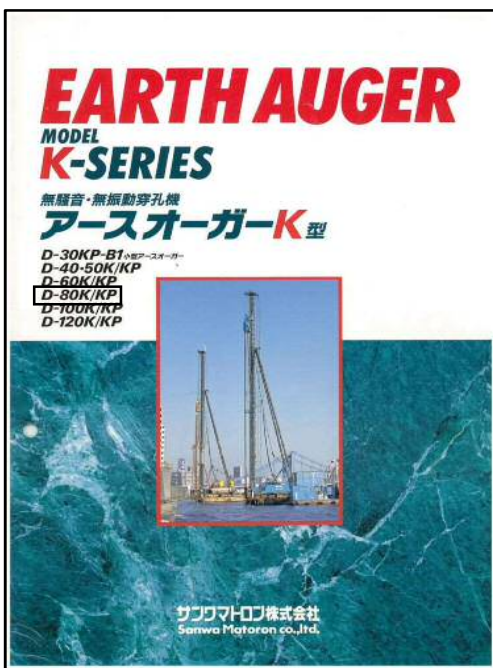


■排出ガス対策型／低騒音・低振動型機械の採用

- ・発電機／(排出ガス対策型／低騒音型)



- ・アースオーガー／(騒音・振動に配慮した杭打ち工法)



- ・バックホウ／(超低騒音型)



■工事区域の仮囲い状況

・仮囲いの状況(全景)



・住宅地側仮囲い(5m)の設置状況



■遮水工法の採用(掘削部の遮水により揚水抑制を図る。)

1. SMW柱列式地中連壁工事施工計画

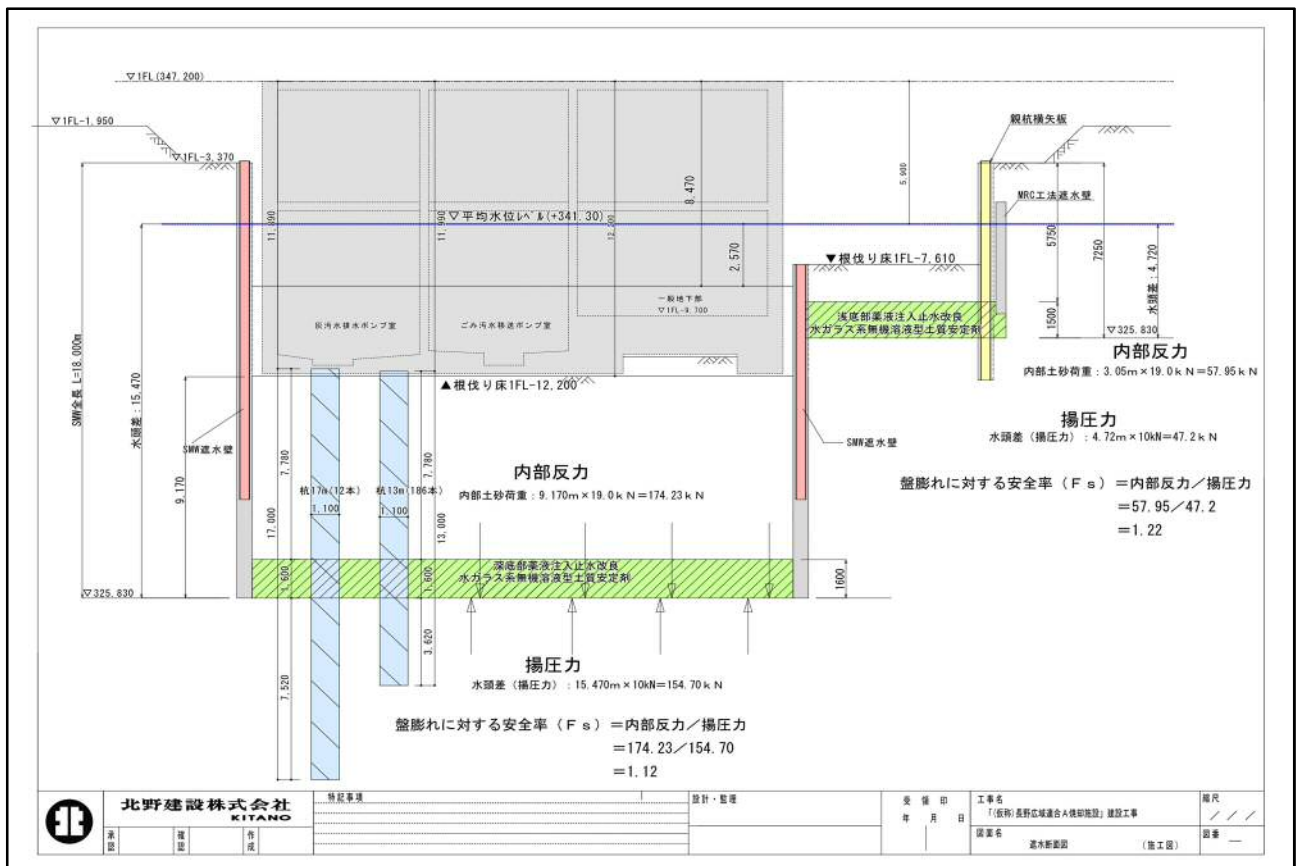
・地下帯水層の遮水

地盤変状対策として、セメント系ソイル柱列壁を設置して地下帯水層の遮水を行う。
セメント系ソイル柱列壁は、原位置土と混合液とをミキシングして地下にソイルセメント壁を造成する工法であり、地下帯水層の遮水を行うことで掘削場所の湧水の抑制を図る。

2. 二重管ストレーナー複層式薬液注入施工計画

・掘削底部の遮水

掘削底部では、水ガラス系無機溶液型土質安定剤による止水改良を行い、掘削底部からの湧水の抑制を図る。



■雨水の場内地下浸透(対策状況)

・素掘り側溝



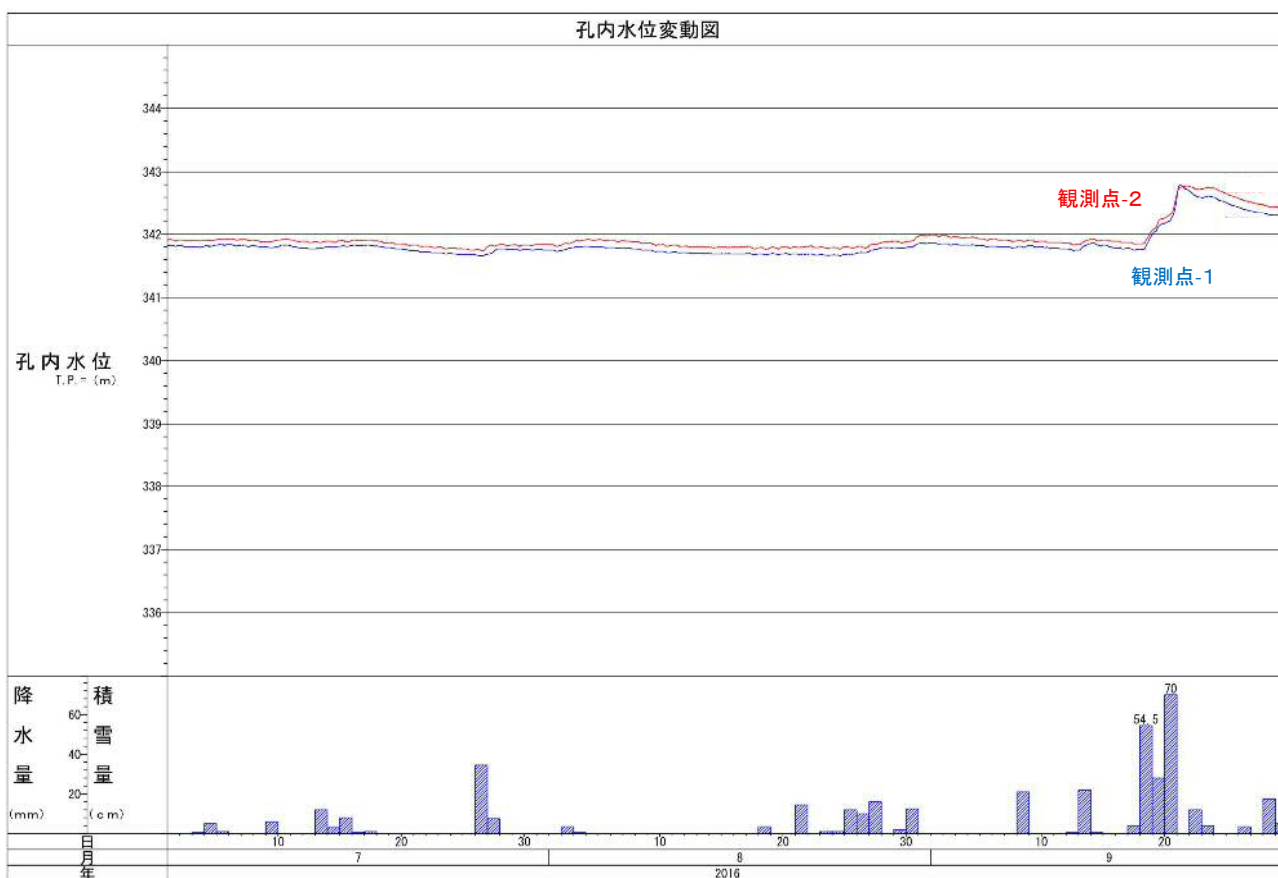
・浸透枳



・仮設井戸(排水釜場)



■地下水位モニタリング(結果)

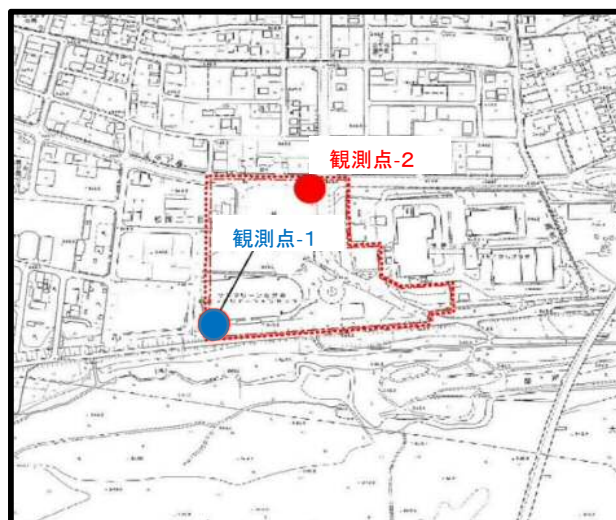


(考察)

敷地内における地下水位計(2箇所)において、孔内水位変動の観測を行った。
2箇所における地下水位の変動がほぼ同じであることから、敷地内での地下水位は均一していることがわかる。

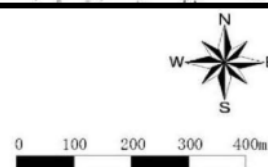
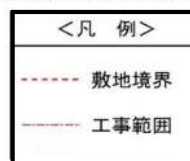
また、7月から9月の地下水位(平均)は341.9TP.mとなっており、環境影響評価書に示される342TP.mとほとんど同じであるので工事中による影響はなく、気象による変動であったと考える。

特に、9月の降雨量が多いのに比例して地下水位も上っていることから敷地内の雨水が地下浸透していることも推測される。



	地下水位(TP.m)		
	7月	8月	9月
観測孔①	341.78	341.73	342.05
観測孔②	341.86	341.84	342.16
(平均)	341.90		

TP.: TokyoPeil(東京湾平均海面)で標高の基準となる値を指す。



■建設発生土再利用／現場での分別搬出

・建設発生土を造成盛土として再利用状況



・産廃分別状況



2. 対象事業の実施状況に係る図面、写真

現況写真 (凡例) - · - · : 敷地境界線



7月



8月



9月

主な工事写真



SMW(連壁)工事



薬液注入工事



杭工事